

早春の旅人

作曲

南風

こまち

梅のつぼみが花開く頃
渡り鳥たちは高い空へ
手袋を外してみると
まだ肌寒い 寒の戻り

黄昏の残り香がまだ
胸の奥底で翼を広げる
長くか細い私の来た道
そっとヴェールをかけるように

たとえ長い暗闇に閉ざされて
星降る夜に因果が巡っても
あなたは南風になって
そっと私の追い風になる

春一番に乗って
私も旅立ちましょう
あの日々が二度と帰らぬように
春一番がきつと
私のきつぷを運んでくれる
いつか私が胸を張れるように
ああ きつと明日は
春うらら

ふきのとうが雪を割る頃
凍てつく海は深くうねる
首巻をほどいてみると
なごり雪には まだ早すぎる

赤レンガの残像がまた
瞼の裏で流れ去り行く
まっすぐ伸びる私の行く道
冷たいレールを光らせるように

たとえ深い霧に包まれて
黒い因果に飲み込まれても
あなたは鉄の轍を駆けて
きつと私を迎えに来る

春一番に乗って
私も帰りましょう
あなたを二度と離さぬように
春一番がきつと
私の家路を教えてください
いつかあなたと酌み交わせるように
ああ きつと明日は
雪解けだ